



よみがえる グリーンライン

～拾う神～



グリーンラインを愛する会
理事長 丸山 孝志

先の見えない悪戦苦闘で、戦線を離れる仲間も出始めました。また道路にしろ、公園にしろ、公共の場所で活動する以上、行政の理解や協力が無ければなかなか前に進めません。

しかし、私にとって行政の役割分担は複雑怪奇としか言いようがないものでした。

「道路のゴミ拾いは広島県の道路維持課」「道路に看板を設置したり、木を植えたりの許可は広島県の道路管理課」「県立後山公園の管理は広島県東部農林事務所だが管理業務は福山市観光課」「ファミリーパークは福山市公園緑地課」「廃棄物の件は福山市廃棄物対策課」「国立公園区域で何かやるには環境省広島保護官事務所」…本当に覚えるのさえ大変です。県立後山公園第二遊歩道の周辺の松枯れ木を切ろうとすると「国有林なのでまず福山森林事務所に行き、その次に保安林指定がかかっているので広島県の林務課に行き、その後に環境省に行き…」という事になるので実際に現地で作業をするまでには1か月以上はかかっていました。

しかし、私が必死になって役所周りをしている姿を見かねて福山市の観光課長が「私が交通整理と橋渡しをしてあげよう」と申し出てくださったのです。

まさに「捨てる神あれば拾う神あり」でした。

その後次々と「拾う神」が現れました。

広島県福山地域事務所(当時)の所長は「丸山さんが県の管理する場所の環境を何とか改善しようとして、第一庁舎に行き第二庁舎に行き、3階に上がり2階に降り歩き回ってもらうのは申し訳ない。グリーンラインとそこで丸山さんたちがやろうとしている事に関係する各部署の人間が集まって話し合ってはどうか?」と言って下さり、年に1回関係部署の皆さんのが集まって下さり、様々な課題について話し合う場を設けてくださいました。この会議は数年間継続的に開

催されました。

また、行政の中だけでなくマスコミにも「拾う神」が登場してくれました。彼との出会いもなかなかドラマチックでした。

ある日、私は台風の後のグリーンラインを走っていました。コーナーを曲がった先に道の真ん中に立つ人を見つけ、慌ててブレーキを踏みました。その向こうには道路をふさぐ松の木がありました。

「危ないなあ…轢かれたいのか?」

悪態をつきながら見るとカメラを提げ、ノートとカバンを持っています。

「ひょっとしてマスコミの人かな?」そう思いながら車を降り、近付くと彼が話しかけてきました。
「この道路って、いつも嵐の後はこんな感じなのですか?」

「嵐じゃなくても、倒木はしおちゅうですよ。」

「そうなんですか。僕は最近福山に来て、良くわからないのですが、景色は素晴らしいのにずいぶん荒れた道路ですね。」

そんな会話を交わしたのが彼と仲良くなったきっかけでした。その後彼は私の活動の動機、何をやろうとしているのかを真剣に耳を傾けてくれました。

その後、彼は私にとっても会にとっても、とても心強い応援団になってくれました。



行政との部署を横断した話し合いの場